

道南の観光客1364万人

新幹線開業効果で大幅増

渡島総合振興局と檜山振興局は26日、2016年度に各管内を訪れた観光客数を発表した。どちらも16年3月の北海道新幹線開業効果を大きく反映した形となり、渡島管内は前年度比15・2%増の1259万人で、03年度以来の1200万人台を回復。檜山管内は同3・6%増の105万6千人で、前年度に続き100万人の大会を超えた。

(藤本陽介、志村直)

木古内町最大の310%増

各市町からの報告を集計し、市町間の重複は調整していない。道外・道内別で

は、渡島は道外が前年度比18・5%増、道内が同12・1%増。檜山は道外が同41・5%増だった一方、道内は同4・3%減だった。日帰り・宿泊別では、渡島は

日帰りが同15・6%増、宿泊が14・3%増。檜山は日帰りが同4%増で、宿泊は同0・6%減だった。檜山は道内の日帰り客を取り込むことができなかった。

渡島の外国人宿泊者数は同3・2%増の4万8千人で、国・地域別では台湾、中国、韓国の順だった。

市町別客数は表の通りで、道南全18市町のうち、森町を除く17市町で増加した。渡島では、函館市が新幹線開業でメディアへの露出度が大幅に増えたほか、市内初のフルマラソン大会の開催効果なども加わり、過去最多の560万人を記録し同13・3%増になった。

新幹線駅と道の駅がオープンした木古内町は同310%、新幹線

開業に合わせ道の駅を整備した鹿部町は同124・2%の大幅増となった。新函館北斗駅がある北斗市は同16・9%増だった。道南で唯一、観光客数が減少した森町は、昼食を食べる観光客が隣の鹿部町に流れたことなどが減少の要因と考えられる。

檜山は、今金町がクアブラザピリカの利用客増で同14・6%増となり、乙部町では道の駅の来場者数が増加したことなどで同6・2%増。江差町は姥神大神宮渡御祭などが天候に恵まれ同3・3%増えた。

た。利用者数は同0・7%増の886万人となった。道南の人口減を背景に利用者数は近年、伸び悩んだが、函館市からバス事業を引き継いだ翌年の03年3月期以来の増収増益だった。

営業損失は同11・7%減の4億3200万円。国や自治体からの補助金は、3月下旬に導入したICカード「ICAS nimoca（イカすニモカ）」の関連費もあり、8億8300万円と、前期よりやや増えた。営業損失の発生と補助金による穴埋めは16期連続となった。

(長谷川紳二)

北海道新幹線



2016年度の道南の観光客数

自治体	人数	増減率(%)
函館市	560万6,900	13.3
北斗市	123万7,700	16.9
松前町	43万4,900	6.6
福島町	7万5,000	6.4
知内町	16万9,800	9.5
木古内町	62万6,100	310.0
七飯町	199万8,100	4.0
鹿部町	47万9,500	124.2
森町	82万7,600	▲10.3
八雲町	62万8,000	9.6
長万部町	50万7,000	0.1
計	1,259万600	15.2

自治体	人数	増減率(%)
江差町	34万5,800	3.3
上ノ国町	11万5,900	1.1
厚沢部町	16万5,800	2.0
乙部町	10万5,100	6.2
奥尻町	2万7,100	1.9
今金町	6万6,900	14.6
せたな町	22万9,400	2.6
計	105万6,000	3.6

※増減率は前年度比、▲は減少

過去最多の560万人を記録し同13・3%増になった。新幹線駅と道の駅がオープンした木古内町は同310%、新幹線

開業に合わせ道の駅を整備した鹿部町は同124・2%の大幅増となった。新函館北斗駅がある北斗市は同16・9%増だった。道南で唯一、観光客数が減少した森町は、昼食を食べる観光客が隣の鹿部町に流れたことなどが減少の要因と考えられる。

檜山は、今金町がクアブラザピリカの利用客増で同14・6%増となり、乙部町では道の駅の来場者数が増加したことなどで同6・2%増。江差町は姥神大神宮渡御祭などが天候に恵まれ同3・3%増えた。